

| | | |
|--|----------|-----|
| 科目名称： | 保育者・教職入門 | |
| 担当者名： | 田島 千香子 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 専門教育科目 | 講義 | 2 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| <p>今日、子どもを取り巻く環境や家庭のあり方の変化により、保育者（幼稚園教諭や保育士、保育教諭）に求められる役割や責務は多様化、高度化している。この授業では、保育者の制度的位置付けや倫理、子どもが健全に育つ環境や地域社会全体を視座に入れた、保育者の役割・資質・専門性等について学ぶ。また、その学びを通して、これから保育者になるにあたっての自らの課題を認識し、保育者としての意欲や自覚を養う。</p> | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| <p>①保育者の役割や倫理、制度的な位置付けを理解する。 ②保育者の専門性や専門職的成長について考察し、理解する。 ③保育者の協働について理解する。</p> | | |

| 幼児教育学科 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
|--------|---|------|
| DP(1) | 建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。 | |
| DP(2) | 優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。 | ○ |
| DP(3) | 幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。 | |
| DP(4) | 学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。 | |

| 評価方法/ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | その他 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|-----|-----|
| 幼児教育DP(1) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(2) | | 30 | 40 | 30 | 100 |
| 幼児教育DP(3) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(4) | | | | | 0 |
| | | | | | 100 |

| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載） | |
|--------------|--------------------------|-------------|
| あり | 《内容1》 幼稚園教諭 | 《経験年数1》 34年 |
| | 《内容2》 保育士 | 《経験年数2》 2年 |
| | 《内容3》 | 《経験年数3》 |
| | 《内容4》 | 《経験年数4》 |

| 評価ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|----------|-------|-------|----|-----|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間(分) |
|---|--|-------------|
| 第1回 「保育者・教職入門」のガイダンス 「保育者」とは(グループワーク) (ITC使用) | シラバスを精読しておく。 | 20分 |
| 第2回 保育者になるために(制度的な位置付けと倫理) (ITC使用) <ファイル作り> | 教科書P31の表2-3「倫理綱領」を読んで おく。ファイル準備。 | 30分 |
| 第3回 保育者の仕事とその一日(幼稚園・保育所・認定こども園) DVD視聴 | 幼稚園・保育所・認定こども園の一日の 流れを調べておく。 | 30分 |
| 第4回 子どもの内面や発達を理解する保育者(子ども理解に 基づく保育) | 教科書P77~91「子どもの内面や発達の理 解」を読んでおく。 | 30分 |
| 第5回 遊びを援助する保育者(遊びの理解と援助の在り方) (グループワーク・ITC使用) | 教科書第6章を読み、子どもの遊びと学び について把握しておく。 | 30分 |
| 第6回 教材などを通して遊びを深める保育者①(絵本の教材 研究) (グループワーク) | 自分の好きな絵本を1冊選んで持参する。 | 30分 |
| 第7回 教材などを通して遊びを深める保育者②(教材研究と 環境構成) (ITC使用) | 教科書P183~188を読み、教材研究の大切 さをまとめてくる。 | 30分 |
| 第8回 個と集団を活かす保育者(個と集団への保育者の関わり 方) DVD視聴 | 教科書P113~120「個と集団の育ちと捉え 方」を読んでおく。 | 30分 |
| 第9回 保育を展開し評価する保育者(保育の計画・実践・省 察) | 教育要領・保育指針の指定ページを読み、指 導計画及び評価について把握しておく。 | 30分 |
| 第10回 家庭や地域と連携・支援する保育者①(保護者や家庭 との連携・支援) (ITC使用) | 子育て家庭への支援について調べてお く。 | 30分 |
| 第11回 家庭や地域と連携・支援する保育者②(地域社会や小 学校との連携・協働) (ITC使用) | 教育要領・保育指針の指定ページを読み、小 学校との連携・接続を調べておく。 | 30分 |
| 第12回 多様な子どもの理解と支援する保育者(他機関との連 携) | 教科書第9章を読み、多様な子どもについ て調べておく。 | 30分 |
| 第13回 成長する保育者と同僚性(豊かな同僚性を築く) | 保育者の同僚性とは何かについて調べて おく。 | 30分 |
| 第14回 保育者の専門性・自分の理想とする保育者像 (グループワーク・ITC使用) | これまでの学びから「自分の理想とする保育 者像」をレポートにまとめておく。 | 40分 |
| 第15回 授業の振り返りとまとめ・小テスト | これまでの復習をしておく。 | 60分 |

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、教科書を読んだ上で調べたり、課題プリント等をまとめたりすることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
提出物(授業内プリント・レポートなど) 40%、授業への積極的関与(意見・取り組み姿勢など) 30% 小テスト 30%

課題に対するフィードバック

授業内プリントや課題レポートは評価し返却する。

教科書・参考書

教科書:「アクティベート保育学02保育者論」大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸編著 ミネルヴァ書房
参考書:「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
参考資料等:授業内で適宜資料を配布する。